

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明日香運送岡崎東倉庫	階数	地上2階
建設地	愛知県岡崎桜山町字西牧野1-1他	構造	S造
用途地域	0	平均居住人員	5人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,640時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2018年9月18日
敷地面積	5,025 m <sup>2</sup>	作成者	川口平和
建築面積	2,265 m <sup>2</sup>	確認日	2018年9月20日
延床面積	4,349 m <sup>2</sup>	確認者	駒井秀人



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

環境品質 G (43) / 環境負荷 L (38)

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ (30%)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 77%, ③上記+②以外の 77%, ④上記+ 77%

目標値: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 4  
Q3 室外環境 (敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 2  
LR2 資源・マテリアル: 2  
LR3 敷地外環境: 2

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A., 温熱環境: N.A., 光・視環境: N.A., 空気質環境: N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性: N.A., 耐用性: 3.0, 対応性: 3.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境: 1.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 2.0

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮: N.A., 自然エネ: 3.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源: 3.4, 非再生材料の: 3.3, 汚染物質: 4.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

地球温暖化: 3.9, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 1.6

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

3.9

#### ③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) **10.4%**

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) **0.0%**

#### ②資源の有効活用

3.3

#### ④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	全体		
	重点項目									建物全体・共用部	建物全体・共用部
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ソーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視											
2 喫煙の制御											
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

独自

②

②

住宅の品確認法等級1相当とした。  
ビニルクロスを選択  
塩ビ管の利用にてBクラスの耐久性を確保した。  
主要用途上位3種の2種以上にB以上を使用Eは不使用

<b>3 対応性・更新性</b>				3.9	0.48					3.9	
3.1 空間のゆとり		②	1階高さを6.8m 2階有効を3.5mとして余裕のある空間とした。 壁長さ比率0.096<0.1以下とした。 床荷重は4500kN/m <sup>2</sup> 以上確保	5.0	0.31						
1 階高のゆとり				5.0	0.60						
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40						
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31						
3.3 設備の更新性				2.3	0.38						
1 空調配管の更新性				1.0	0.17						
2 給排水管の更新性		1.0	0.17								
3 電気配線の更新性		3.0	0.11								
4 通信配線の更新性		3.0	0.11								
5 設備機器の更新性		3.0	0.22								
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22								
3.0 将来用ルートの確保で構造部材の損傷させず更新修繕が可能											
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57					2.1	
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30					1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40					3.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30					2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50						
3.2 敷地内温暖環境の向上				2.0	0.50						
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.4	
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40					3.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制					-					-	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28					3.0	
3 設備システムの高効率化			BEIm=0.51	5.0	0.43					5.0	
4 効率的運用				3.0	0.29					3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00						
4.1 モニタリング				3.0	0.50						
4.2 運用管理体制				3.0	0.50						
集合住宅の評価					-						
4.1 モニタリング					-						
4.2 運用管理体制					-						
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30					3.5	
<b>1 水資源保護</b>				3.4	0.15					3.4	
1.1 節水				4.0	0.40						
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60						
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67						
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33						
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.3	0.63					3.3	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07						
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	0.20						
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05						
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		5.0	0.24						
躯体と仕上げ材が容易に分離可能 内装材と設備が錯綜しない構											
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				4.3	0.22					4.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.32						
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68						
1 消火剤				4.0	0.33						
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.33						
3 冷媒				3.0	0.33						
粉末式消化器によりガスの排出が無い。 ノンフロン断熱材の使用。											
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30					2.8	
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が一般的な建物と同等	3.9	0.33					3.9	
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.0	0.33					3.0	
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25						
2.2 温暖環境悪化の改善				2.0	0.50						
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25						
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25						
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25						
3 交通負荷抑制		独自	車両出入り口に余裕をもたせ交通への影響を少なくした	5.0	0.25						
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25						
<b>3 周辺環境への配慮</b>				1.6	0.33					1.6	
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>											
1 騒音		独自									
2 振動		独自									
3 悪臭											
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				1.6	0.67						
1 風害の抑制				1.0	0.70						
2 砂塵の抑制											
3 日照障害の抑制				3.0	0.30						
<b>3.3 光害の抑制</b>				1.6	0.33						
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70						
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30						

# 重点項目スコアシート

明日香運送岡崎東倉庫

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:10.4%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

## ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 明日香運送岡崎東倉庫

計画上の配慮事項	
総合	物流倉庫であり運営面での環境負荷は少ないが、基本設計時に耐久耐震性を考慮したり照明に全てLEDを採用するなど環境負荷低減に配慮した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
Q2 サービス性能	階高さを高くし、内部の壁を少なくして使用勝手を向上させた
Q3 室外環境(敷地内)	植栽の確保 5%以上(敷地面積比)を行った。
LR1 エネルギー	倉庫内の照明器具に全てLED照明を採用し消費エネルギーの削減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	外構仕上げや基礎下に再生砕石を採用した。
LR3 敷地外環境	配送車両の駐車場を敷地内で100%確保した。敷地外への雨水流出抑制のため敷地内に雨水貯留槽を設けた。また車両よりの油脂流出の抑制のためグリストラップを設けた。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。